

## 重要行政評価指標(KPI)および目標値に関する指摘事項および変更について(案)

目標名	施策名	事業No.	具体的な事業	重要業績評価指標(KPI)	現状値 (令和元年)	令和2年度			目標値 (令和6年度)	委員会指摘事項	市回答
						実績値	達成度	判定			
基本目標2	(1) 駅周辺拠点地区の活性化	5	① 聖蹟桜ヶ丘駅周辺地区の活性化の推進	聖蹟桜ヶ丘駅乗降客数(1日あたり) ↓ 聖蹟桜ヶ丘駅来訪者数(1日あたり)	65,246人	47,521人	△17,725人	C	66,000人	コロナの影響を受けて、大幅に数値が減少している。活性化の推進の数値を乗降客のままにするのかはよいのか	KPI: 駅乗降客数⇒来訪者数に変更 コロナの影響により乗降客数が減少し、テレワーク等生活様式の変化が見込まれる。また、駅乗降客数は、乗り換え等の一時利用の人数も含まれた人数であり、商圈分析ツールを活用することにより、一定範囲に来訪した人数を把握することができるため、KPIの評価値を変更する。  目標値: 人流データ取得後変更予定 数量は商圈分析ツールを活用できる予算担保され次第、データ取得し目標値を設定する。なお、現状値については、取得可能なデータ値となるため、令和元年度は困難である。
		6	② 多摩センター駅周辺地区の活性化の推進	多摩センター駅乗降客数(1日あたり) ↓ 多摩センター駅来訪者数(1日あたり)	179,117人	108,848人	△70,269人	C	180,000人		
	(4) 広域的な観光振興の展開	9	① 観光資源を活用し回遊性を生み出す取組	① 市内観光客数	6,223,721人	2,660,256人	△3,563,465人	C	6,300,000人 ↓ 5,000,000人	コロナの影響を受けて、数値が大幅に下回っている。今後のコロナの影響を踏まえたKPIに変更した方がよいのではないか	KPI: これまで通り市内観光客数を基準とする。 コロナの影響により大幅に減ってしまった数値は、オンライン等の普及により、観光やイベントについても実際に訪れずとも楽しむことができる、という日常となった。しかし、実際に訪れることによって得られる多摩市の魅力を発信することにより、来街者の復活を目標値とする。  目標値: 6,300千人⇒5,000千人 オンラインなどが普及し、多摩市に来なくても観光を楽しむことができる日常になり、来街者が減っている状況にあるが、実際に訪れてもらうことにより、街の賑わいや経済効果を期待する。実際に触れることによって感じる事ができる多摩市の魅力等を発信することにより、実際に来訪する人数を増やしていく。数量は、新しい生活様式などコロナの影響を踏まえて数値を変更した。
基本目標3	(3) 地域子育て支援拠点の機能強化	14	① 地域子育て支援拠点の機能強化	子育てひろば事業への利用者数(単年)	87,127人	64,885人	△22,242人	C	115,000人	コロナの影響を受けて、数値が大幅に下回っている。今後のコロナの影響を踏まえたKPIに変更した方がよいのではないか	KPIおよび目標値: 変更しない コロナ禍が続く中でも、子育て世帯の居場所作りの観点から閉鎖はせず、引き続き感染対策を行いながら実施していく。 令和4年3月には、パルテノン多摩4階に子どものエリア事業として新たに地域子育て支援拠点機能を有する「こどもひろば」がオープンし、これにより市内10か所での実施となる。パルテノン多摩との連携事業等も行い、多摩センターエリアの賑わい創出にも資するよう運営していくことから、現段階では変更をかけないこととした。
	(4) 地域コミュニティによる子育て支援の充実	15	① ファミリー・サポート・センター事業の充実	ファミリー・サポート・センターの利用・提供会員数(時点)	1,385人	1,386人(1人増)	0.5%	C	1,600人(215人増)	子育て世帯の環境も変わっている点から、KPIの変更はしなくてよい	KPIおよび目標値: 変更しない コロナ禍によりリモートワークも定着する中で、子育て世帯の環境も変わってきているが、会員相互の援助活動として地域に根差した活動の強みを生かし、環境変化に柔軟に対応していくことから、現段階ではKPIおよび目標値については変更しないこととした。

## 重要行政評価指標(KPI)および目標値に関する指摘事項および変更について(案)

目標名	施策名	事業No.	具体的な事業	重要業績評価指標(KPI)	現状値 (令和元年)	令和2年度			目標値 (令和6年度)	委員会指摘事項	市回答
						実績値	達成度	判定			
基本目標4	(5)市民の防災意識の向上と自主防災組織の活性化	22	①自主防災組織の活性化	自主防災組織の組織数(時点)	180組織/220組織	181組織/220組織 (1組織増)	5.6%	C	198組織/220組織 (18組織増)	コロナの影響を受けて数値の伸びがよ くはないが、このままの目標値で問題 ないか	KPIおよび目標値:変更しない コロナの影響を受け、令和2年度の目標値は達しなかったものの、現 段階では令和6年度の目標値は高い目標値を維持することとした。
	(6)多摩ニュー タウン再生の推 進	24	②多摩ニュー タウン再生ソフト 事業の取組の 推進	①多摩ニュー タウン再生に係 るイベントの 参加者数 (単年)	347人	20人	5.0%	C	400人	コロナの影響を受けて、数値が大幅に 下回っている。今後のコロナの影響を 踏まえたKPIに変更した方がよいので はないか	KPI:イベントの参加者数⇒交流・関係人口の創出数に変更 コロナ禍により、イベントの開催が先行きが見えない状態になった。し かしながら、オンラインによるイベントの実施などを行い、多摩市に交流 人口や関係人口を一定数確保することは可能と考えKPIを変更した。 ※オンラインにおける交流・関係人口についてはInstagramやTwitterで あればフォロワー数を、YouTubeであれば視聴者数などとする。
				↓ 多摩ニュー タウン再生に係 る交流・関係 人口の創出 数(単年)	—	15人	7.5%	C	200人		
(7)まちづくりを 支える公共交通 網の再構築	25	①公共交通網 の再構築に向 けた交通不便 地域の解消	「多摩市地域 公共交通再 編実施計画」 に基づく実証 実験実施路 線数(累計)	0路線	0路線	0%	C	延べ6路線 ↓ 延べ2路線	令和4年より調査、5年より試験的の実 施になるため、路線数を変えるなど、目 標値の見直しが必要ではないか。	目標値:延べ6路線⇒延べ2路線に変更 新型コロナウイルス感染症の影響の拡大化と長期化により、公共交通 機関の利用状況などが計画策定時の状況から大きく変化し、その収束 の見通しが立てられない状況が続いている。 そのため、現計画に基づく実証実験については一旦立ち止まり、各関係 機関と連携を図るとともに、今後の公共交通を取り巻く状況等を踏まえ ながら、多摩市のまちづくりを支える市内公共交通網の形を模索してい く。	